

KTK

NO. 81

後援会費郵便振替口座
01070-7-32145
あらぐさ後援会

あらぐさ通信

編集 集 あらぐさ後援会

編集協力 社会福祉法人あらぐさ福祉会

〒617-0813 京都府長岡京市井ノ内広海道24-3

TEL 075-953-9212 FAX 075-953-9215



春を呼ぶ 願いを込めて——
「ケアホームいろどり」ときまりました。



いろどり君

新しいケアホームの名称が、「ケアホームいろどり」と決まりました。入居される27名、それぞれの個性と、お一人お一人のその人らしさを尊重した「いろどり」あるケアホームになるようにとの願いが込められています。

「ケアホームいろどり」の開設の目的は次の通りです。

1 あらぐさ福祉会の理念にもとづき、「どんなに障害が重くても、学び育った地域で、豊かに安心して暮らし続けたい」との願いにこたえて、地域に開かれたホームとして開設します。

2 障害のある人たちの豊かな暮らしを応援する、家族や職員をはじめ、多くの市民の方々と力を合わせて建設し開設するものです。

3 乙訓地域で引き続き必要とされるケアホームの、先駆的な取り組みとなるよう、運動と実践を大切にします。

多数の来賓の出席をいただいて、起工式が行われました。
(2頁に関連記事)

行政・議会・社協 地元自治会からもご出席

「いろどり」起工式



待望の新ケアホーム起工式が11月25日に、来賓、法人関係者など50名あまりの出席で行われました。

村山容祥統括事業長がこの間の経過を報告。西田政子理事長から、行政をはじめ多くの市民の皆様にご支援をいただいたことに感謝し、これからも、地域の皆様と一緒に、障害があっても地域の中で暮らし続けることができる地域づくりをすすめたいとの決意をこめた挨拶がありました。

来賓を代表して、小田豊長岡京市長（山田常雄健康福祉部長代理）から「（新ケアホームが）新たな拠点として整備・展開されますことに、心から敬意を表します」との祝辞をいただきました。続いて、設計・監理にあたるガロア一級建築事務所の吉本武市代表取締役と、施工にあたる要建設の三輪泰之社長から謝辞があり、河合幸子向日市健康福祉部長の発声で乾杯をして、起工式を終えました。

入居への関心高く

6月 利用開始予定

入居希望者説明会



11月26日、「ケアホームいろどり」の入居希望者説明会が、長岡京市中央公民館で開催されました。あらぐさ利用者をはじめ、乙訓地域にお住まいの障害のある方々65家族が参加されました。

ケアホームでの暮らし、「いろどり」の建物概要、開設の目的、24年度の運営のあらまし、利用開始までの流れ、入居者募集の内容、利用料などが説明され、質疑がかわされました。

1月中には利用者が内定し、6月から「いろどり」での生活が順次始まる予定です。

障害の特性を考慮 安全と安心の設備と設計

建設の概要



いろどり君

所在地 長岡京市井ノ内宮山13-1

敷地面積 1296.02㎡

建物 いずれも鉄筋コンクリート造 2階建て

A棟（わかくさ） 延416.24㎡

居室8室 ショートステイ2室

B棟（たちばな） 延166.26㎡

居室4室 ショートステイ1室

C棟（もえぎ） 延326.42㎡

居室10室 ショートステイ2室

D棟（ききょう） 延231.18㎡

居室5室 ショートステイ1室

※自動火災報知設備、スプリンクラー設備を設置
※オール電化



起工式で、小田豊長岡京市長からの祝辞をいただく。山田常雄健康福祉部長が代読。（11月25日）



11月26日の入居希望者説明会

障害の重い人たちが地域の中で暮らし続けるために

—ケアホーム建設の課題—

ケアホーム「いろいろり」の建設が進んでいます。限られた予算の中で、障害の特性などを考慮して、暮らしやすさを追求した建物になるよう設計士とも検討を重ねてきました。また、ホームでの過ごし方やその支援の在り方について、現場職員は、各地のホームの見学や実習も体験してきました。

いっぽう、ホームでの暮らしを支援する職員の配置とホームの運営にかかわる事業経費はたいへん厳しいものがあります。今年度は、障害者自立支援法にかわる、「障害者総合福祉法（仮称）」をつくる大切な年でもあります。現状の制度の限界を明らかにしながら新しい制度をつくりたいものです。

1 劣悪な報酬制度の抜本的な見直し

事業者が利用者に「障害福祉サービス」を提供した場合に、事業者を支払われる、国が定める費用を報酬といえます。ケアホームについてみますと、世話人や生活支援員の配置数によって、異なる報酬単価が設定されていますが、きわめて低額なものになっています。

現在の報酬額だけでは、世話人、生活支援員など、支援にあたる人数と時間を必要だけ確保することができません。夜間支援加算が付きませんが、夜間に必要な複数の夜勤者を配置することはできません。さらに、報酬は、日割の計算で支払われるた

め、入居される方の利用日数によって事業所の収入は変動するのです。

少ない報酬では、どうしても非正規の職員で運営することになりがちですが、非正規職員（非常勤職員）だけでホームの運営ができるわけがありません。人件費には、基本給に加え手当なども必要であり、保険や年金の掛け金などの事業者負担、賞与などが加わることから、現在の制度では、支援を手厚くすればするほど経営が苦しくなる仕組みになっているのです。

入居者への行き届いた支援と、働く人たちの働きがいと生活保障、ケアホームの安定した運営のために、劣悪な報酬制度の抜本的な見直しが必要です。

2 ケアホームや自宅をバックアップするシステムの構築

重度の障害のある人が、地域で暮らし続けるためには、新たなケアホームを増設するとともに、障害のある人を支える地域の諸施策の充実と、ネットワークの構築が欠かせません。ここでは、主な項目だけをおおきまします。

- ① 重度の障害のある人が暮らすケアホームに対する自治体独自の加算
- ② ケアホームを確保するため、新築・整備に要する費用の補助
- ③ 医療的ケアを必要とする、在宅やケアホームで生活する重度の障害がある

る人に対して、訪問看護制度を充実し、障害者医療制度の対象にする

④ 緊急時に対応できる24時間の相談支援体制づくり

⑤ 重度の障害がある人が入院した場合、入院先へ支援員、介護人を派遣する制度の創設

⑥ 介護者の緊急時やレスパイトのためのショートステイ（短期入所）の増設

3 障害者自立支援法にかわる「障害者総合福祉法（仮称）」の制定に向けて

政府は自立支援法の廃止に伴う障害者総合福祉法（仮称）を今年の通常国会に上程することを決定しています。

わたしたちが加盟する「きょうせん」は、新しい法制度が、誰もがわけへだてなく働き、暮らし、人とつながる社会を実現するためのものになるよう、障害があるがゆえに、同年代の人と同等の生活をする権利が侵害されてはならないことを法律に明確にさだめ、そのための人的支援と物的保障を原則とすることなどの政策提言を行っています。

ケアホーム「いろいろり」が、障害の重い人たちの暮らしの場として、先駆的な取り組みとなるためにも、新しい制度をつくる運動にも頑張りたいとおもっています。

（あらぐき福祉会 安田隆）

それぞれの 楽しみ つまった 日帰り旅行



デイセンター2（生活介護）には20人のメンバーが通所し、毎日作業や活動を行っています。毎月の分配金の中から、千円ずつ積み立て、年に1回旅行をしています。3年に1回は、1泊旅行で、今回は日帰りバス旅行に出かけました。

普段の生活とは一味違う旅行なので、それぞれのメンバーが楽しめるような内容・行き先の選定をしています。4月に自治会で話し合ったところ、「ゆうえんちにみんなでいきたい」「おんせん」「コーヒーカップのりた」などの希望がありました。これらの希望をふまえ、9月に2グループに分かれて神戸市立フルーツ・フラワーパークに出かけることになりました。

自分たちで準備して

フルーツ・フラワーパークは、フルーツ狩り・遊園地・温泉・モンキーショーなど、いろいろな体験ができていくところです。自治会を中心に、しおりやおこづかい袋作り、持ち物のセッティング、説明や聞き取りなど準備をすすめ、当日を迎えました。

フルーツ・フラワーパークでは、目的の場所へ班ごとに出かけました。フルーツ狩りは梨狩りで、いちばんたくさん食べた人は6個でした。ナイフやピラーを使ってメンバーそれぞれ皮をむき、梨を味わいました。

思い思いのひと時を

遊園地班は、ジェットコースター、メリーゴランド、サイクルスワンなど、あれもこれも乗りたいものがたくさんで、次々に乗り物を楽しみました。

温泉班は、パーク内の「茜の湯」を利用しました。シャグジー、サウナ、赤褐色の湯などで、ゆっくり、のんびりくつろぎました。「アンコール!!」の大きな声が響きわたったのは、モンキーショー班。玉乗りやはしご登りなど、お猿さんの様々な芸が披露され、目が釘付けのメンバーでした。ショーの終わりには、手拍子とともにアンコールの掛け声をするほど、面白い内容のショーでした。

昼食は、黒毛和牛のバーベキュー。その他にも、ソフトクリームやケーキ、お土産も買い、あっという間に一日は過ぎました。

「キャーキャー」楽しみながら、ジェットコースターに乗るメンバー、他の人が乗って



いるのを見て、「自分も」とリクエストするメンバー、群がる鯉にえさやりを楽しむメンバー、前へ前へ出てフリクラを撮るメンバー・・・と、普段のあらぐさはまた違う姿がたくさんありました。

またひとつ 増えた思い出

後日、日帰り旅行の絵や感想をメンバーがかきました。その中には、他のメンバーと一緒にジェットコースターに乗る様子、バーベキューの風景などが描かれています。

そして、「サイコー!!」「たのしかった、また行きたいです」と感想がありました。出来上がった写真をみると、みんな本当に楽しそうに満喫している様子が伝わってきました。

今年も、1泊旅行。今から、「1とまるな」と話して盛り上がりつつあるメンバーもいます。毎日の作業や活動を頑張りながら、楽しい旅行を、みんなできちんと計画していきたいと思えます。

(三谷文菜・記)



創 又 えがおのおのしごと展

ハートあふれる会場をお楽しみください

障害福祉センターあらぐさでは、創えがおのしごと展という作品展を、毎年開催しています。

この作品展は、利用者のつくったものをぜひ地域の人も見てもらいたいと、8年前に始めました。

これまでの作品展では、さをり・草木染め・牛乳パックをつかった紙漉・フェルトやビーズ等、活動の中で作り上げてきた作品を展示したり、テーマを決め、一人一作品を制作したりと、年ごとに、どんな作品展にするかを話し合いながら、すすめてきました。



今年は最終日がバレンタインデーということや、「昨年の震災もあり、暖かい気持ちになれたら」という話から、「ハート」をテ



ーマに決めました。

一年から、それぞれのグループや活動の中で、ハートを意識して、利用者や職員と一緒にイメージしながら、作品作りを進めてきました。



一人一人の個性溢れる、テーマに沿った絵画や、段ボールに原毛を重ね石けん水で固めて、フェルトのポーチ作りやチャレンジしたり、ハート形の粘土やフェルトなどをひもでつなげた巨大立体モビールも登場する予定です。

また、大阪成蹊大学芸術学部の学生さんと合同で作った作品や、この機会にしか並ばない製品をたくさん展示しています。

来ていただいた皆様の心をあたたかくできればいいなあとthinkながら、会場作りを進めています。

会場中にあふれるハート製品をぜひご覧ください。



皆さんのご来場を
心よりお待ちしております。

創 又 えがおのおのしごと展

日時 2月12日(日)
正午～午後6時

2月13日(月)
午前9時～午後6時

2月14日(火)
午前9時～午後3時

場所 長岡京市立産業文化会館
1階ホール

(長岡京市開田3丁目10-16)



入場無料で、どなたでもお入りいただけます。

ジュリーとぼくと支える家族



充実した休日

グループでお出かけ

家族はお父さん、お母さん、2歳年下の弟さんと16歳の犬ジュリーです。

お母さんは6年ほど前からホームヘルパーの資格をとり、老人介護事業所でヘルパーとして働いておられます。

ヒロノリさんは、お母さんが仕事で留守の時は、あらぐさから帰宅すると一人で鍵をあけて入り、用意されたおやつを食べます。ジュリーに餌をあげ、お風呂を洗って沸かすなどして、家族の帰りを待っています。

夕食後は自分の部屋で過ごします。休日にヘルパーさんと出かけた時の写真のアルバムを見るのが好きです。寝るときはお気に入りの歌（NHKのみんなの歌）をカセットテープで聴いたりFMラジオでクラシック音楽を聴きます。

休日の朝は、家族と一緒にジュリーの散歩に出かけるのが日課になっています。また、土曜日のスイミングスクールは6年生から続いており、級も上がりました。周りは、小学生が中心で、新しい子供も入って来るのですが、本人はスイミングを楽しんでいます。

一日を教室で過ごせる環境づくりという点では厳しく、精神的な負担からか落ち着かない様子でした。

5年生の時に向日が丘養護学校（現支援学校）に転校しました。自主学童保育の「わっしょいクラブ」にも先輩のお母さんに誘われて参加し、徐々に落ち着いた生活が送れるようになってきました。

養護学校では寄宿舎生活も体験しました。いろいろな障害のある仲間たち、年齢も異なる人たちとの生活でした。放課後のお買い物、西山への散歩・・・夜食の時間の先輩や先生たちのおしゃべり・・・。お出かけやおしゃべりの好きなヒロノリさんにとって、入舎当時は、泣いていた寄宿舎もだんだん魅力的な生活の場になっていきました。

小学部6年と中学部1年の2年間の寄宿舎生活でしたが、退舎後は家でもだいぶ落ち着いて過ごせるようになっていました。



「ワークセンターあらぐさ」に毎日元気に通うヒロノリさんは30歳。ヒロノリさんのさをり織りは、織り目の粗いユニークな作品で注目されています。クッキーでは袋詰めを担当。パンジーやビオラの栽培にも頑張るヒロノリさんのお家での過ごし方などをお母さんにお聞きしました。

（取材 前田幸子・真殿尊子）



はじめの一步

寄宿舎への入舎

京都市から長岡京市に引っ越してきた2歳のときの検診で発達の遅れを指摘され、「ポニーの学校」（長岡京市・就学前療育施設）へ通うことになりました。「ポニーに行けば治る」と思っていたお母さんですが、物を投げる、無茶苦茶に暴れるなどたいへんなことが多くあり、家では散歩の毎日でした。

3歳からは保育所にも入り、地元の小学校に入学しました。障害への配慮や安定して

日曜日は、月に3回はヘルパーさんと外出します。お出かけ大好きのヒロノリさんの大切な時間です。

この外出は「太郎さんの旅行社」による企画です。あらぐさメンバーのタロウさんが、自分の行きたいところを計画し、参加したい人たちに提示して考えてもらい、決めた場所へヘルパーさんと一緒に出掛けるといふものです。「あらぐさ通信 No.71」に詳しく載っています。

このヘルパーさんと一緒に出掛ける外出に支給される時間は、「基本が16時間」と役所からはいわれます。これでは、1回に5時間ほどにしかならず、家から集合する場所までの時間を入れると、時間は必要です。「この外出がなければ、休日が過ごせない」と役所に訴え、支給時間を増やしてもらったそう



広島平和記念公園にて

です。

今では、ヘルパーさんや一緒に出掛けるメンバーも定着し、充実した休日が過ごせていますが、ヘルパーさんが使えない休日をどう過ごすのが今の課題です。

自立を願って 新ケアホームへの期待

あらぐさの新しくできるケアホームの説明会には親子で出席しました。障害年金とあらぐさで働く給料(約2万円)を合わせると、必要な経費はなんとか賄えそうです。「入れたいいな」とお母さんは思っています。ヒロノリさんも、寄宿舎みたいなのと聞いて「行ってもいいな」と思っているようです。養護学校の寄宿舎が好きだったので、「高等部卒業の時からあったらもっとよかったな」とおっしゃいます。

短期入所(シヨートステイ)の制度は、以前に楽しく利用していましたが、突然「行かない」と言われてやめたそうです。新しいケアホームに入れなくても、短期入所には行けたらいいなと期待をされています。



資格をとってヘルパー

家族との時間も大切に

ヘルパーとして働くお母さん。きっかけは、祖母や親の介護が必要になり、「同じ介護をするのなら、きちんとしたい」と、資格をとったそうです。たぐさんのお年寄りと接すると学ぶことも多くあり、働く仲間とのディスカッションも楽しく、働くことに生きがいを感じておられます。

お母さんは、家では自分の時間はもちにいいのですが、サッカーや野球の観戦をしたりコンサートに行くなど、子どもと一緒に楽しめる時間を持つようになっています。

働くことで子育てのストレスも発散し、家することをすることで仕事のことを忘れるなど、仕事と家庭の両立をつまきはかっておられるお母さんです。

しかし、仕事で忙しいお父さんとのコミュニケーションはなかなか難しいようです。それでも最近は、お父さんとヒロノリさんとの外出もあるそうです。お母さんの負担も少なくなってきました。



笑って、食べて語り合った あらぐさ会のミニバザー



昨年十一月にあらぐさの家族会である「あらぐさ会」はミニバザーを開きながら、ゆつくり話し合い、交流を深めています。とりくみを紹介します。

ゆつくり話し合い 交流



紅葉の美しい頃、光明寺の近くのアトリ工畔で、ミニバザーと交流会をしました。

22年は、新ケアホーム建設支援のため、7日間のバザーに取組み、皆で協力してがんばりました。

今回は、日頃の思いや毎日の生活のこと、将来の暮らしのことなど、ゆつくり話す場を望む声もあり、バザーと同じ日に交流会をもちました。風食は栄養たっぷり手作りカレーを皆で頂きました。手作りケーキ、焼き菓子もあり交流会を盛り上げてくれました。

好評の ミニバザー



当日は晴天に恵まれ、たくさんの方がバザーに立ち寄ってくださいました。バザーコーナーには、ところ狭しといろいろな物が並びました。いただきもの可愛いぬいぐるみ、和食器、ナベ、タオル、衣類に食料品。遊び心で、飴玉すくいと紙風船つきにも登場してもらいました。極め付きは、北海道直仕入れの豆類たち。試食つきで黒豆を重点販売しました。おかげさまで、豆類好評でした！

心温まる 出会い



あらぐさ会のお母さんたちは、どんなものでも売るのがうまいのです。値段交渉合戦を楽しむのが上手です。お客さんを“得



した気分”掘り出し物を見つけた気分”にさせてしまうのです。そして、お客さんとの会話を楽しみ、仲良くなり喜んで帰ってもらいます。お客さんは、カンパまでする羽目になってしまいます。なんともうれしいことでしょう。励ましの言葉までいただきます。また来年くるよ”と言ってくださる人もあり

ました。

こんな心温まる出会いをたくさんさせてもらいました。

参加のお母さんの 感想



●ミニバザーでは、たくさんの人出があり、よかったです。親同士の交流の時間があり、それぞれの日頃の思いをゆつくり話し合うことができました。

●「地域とのつながりを大切にしたい」そんな思いから、地域に根ざした活動をしていきたいと思っています。交流会では日頃しゃべる機会がないお母さんとの話もとても楽しいひと時でした。バザーでは、お客さんとのやり取りが楽しかったです。

●ケアホーム建設支援のアピールもできよかったと思います。又、お母さん達とも和気あいあいと交流できました。手作りカレーに手作りケーキおいしかったです！

●あるご夫婦が、コーヒーをのみに来られケアホームの話をすると、応援の言葉をかけてくだ

さり、カンパもいただきました。感謝です。

●今まで話したことがないお母さん達とも話ができて良かった自分ばかりがしんどい思いをしていると思うが、障がいのちがう人の立場やしんどさ、各々がかかえている困難なこと、理解できたと思います。すでにケアホームで生活されている人のお母さんから本人さんの様子を聞けて良かった。

●交流会では、お互いのしんどいところを話して気持ちが軽くなりました。



●紅葉を見に来られた方に「あらぐさ、がんばっているんだね」と思い出してもらえる場。そんな感じで定着するといいですね。おいしいもの・掘り出し物がある、交流の場としても楽しいバザーでした。

これからも地道な活動を



私たちは、願っています。本人たちが、この学び育った街で、住み慣れた街で、これからもずっと暮らして行けるよう、親や家族と離れても、毎日元気にあらぐさに通い、ケアホームで、なかまたちと一緒に生活できるように。当たり前前に、ふつうに、自分たちらしい暮らしを築いていって欲しいと思います。私たちは、これからも地道な活動を心がけていきたいと思っています。

みなさま方のご協力、ご支援ありがとうございます。
(「あらぐさ会」岩崎)



世界に誇れる新法を

——自立支援法から総合福祉法へ——

今年も、あらぐさ福祉会では、きょうされん第35次国会請願署名・募金キャンペーンに取り組んでいます。

今回は

①障害者自立支援法に代わる新法は、「障害者総合福祉法の骨格に関する総合福祉部の提言」に基づいて制定してください。

②障害者自立支援法に代わる新法の制定にあたっては、必要な予算を確保してください。

という2つの請願項目です。

あらぐさでは、毎年、地域のみなさまに、この運動を知っていただくため、街頭署名を行ったり団体に協力をお願いしてきました。

今回は、京都市協乙訓行政区委員の方々に協力いただいて、街頭署名などに取り組みます。

みなさまのご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

きょうされん第35次国会請願署名・募金運動がはじまりました

川北 幸代 勝山 廣美 小幡 順子 小川 百合子 岡本 沢子 岡本 健一 大西 孝保 浦中 孝義 浦中 さち子 今井 正 今井 三郎 今井 和子 因幡 心えみ 一箭 浩志 伊丹 路恵 石井 憲生 池田 泰子 生田 澄夫 芦田 幸子 赤城 博理 青山 理加

後援会への加入・募金 ありがとうございます
ご協力いただいた方々

10月11日～1月10日 敬称略・順不同

富島 ますみ 東宮 健史 堤 一彦 津田 みさ子 丹 良一 俵 功作 田主 祥子 谷下 久子 谷下 哲馬 谷口 奈緒子 谷川 絹子 谷川 邦宏 田中 礼子 田中 洋子 建山 昌子 武山 彩子 高野 泰男 鈴木 千賀子 鈴木 堂司 下路 晴香 四方 政則 塩見 富美 佐野 さかえ 佐藤 敦子 坂本 憲哉 齊藤 泰樹 近藤 健二 小山 伸一 子安 正和 小林 正子 小林 崇子 越本 宏子 粉川 晴美 上坂 愛子 雲川 雅美 窪島 敏子 木村 悦子 川添 正徳 仲岡 靖彦 永崎 隆雄 中洲 政子 西田 道子 西田 栄治 西村 久美子 西村 春美 長谷川 朋子 畑 健二 浜中 信彦 林 基樹 原田 文孝 原田 正雄 原田 多津子 平井 スミ子 平野 スミ子 平田 弘子 平塚 治男 平塚 洋子 山副 スノ 山下 由紀子 山口 正人 敷 良蔵 安松 美佐子 八木 千代子 八木 勝光 森本 達也 森本 尚夫 銘苅 貴徳 宮本 悦子 峰島 厚 南 美津子 三木 理枝 真殿 尊子 松村 美代子 増田 聡子 増田 尚 前場 智子 仲岡 靖彦 永崎 隆雄 中洲 政子 西田 道子 西田 栄治 西村 久美子 西村 春美 長谷川 朋子 畑 健二 浜中 信彦 林 基樹 原田 文孝 原田 正雄 原田 多津子 平井 スミ子 平野 スミ子 平田 弘子 平塚 治男 平塚 洋子 山副 スノ 山下 由紀子 山口 正人 敷 良蔵 安松 美佐子 八木 千代子 八木 勝光 森本 達也 森本 尚夫 銘苅 貴徳 宮本 悦子 峰島 厚 南 美津子 三木 理枝 真殿 尊子 松村 美代子 増田 聡子 増田 尚 前場 智子

(株)シャロン
(株)ユニバーサルホームサービス
代表取締役 波多野 賢
下尾 医院 下尾 和敏
T&T美容室 鳥居 敏江
長岡天満宮社務所
ぱんだ企画
ペーカリー セルフイユ
療術院つえの 上野 徳太
乙訓教職員組合
匿名 16名

今井 雄次
山川 宏一
山本 京子
福田美弥子
長岡福音自由教会
山崎幼稚園
あらぐさ後援会
匿名 1名



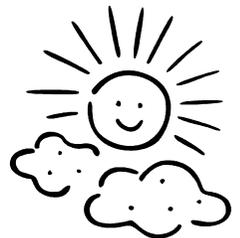
法人へのご寄付
御礼

誠にありがとうございました

23年7月～12月
敬称略・順不同

3月末までに
同封の振込用紙にて
ご加入のほど
なにとぞ 宜しく
お願いします

お願いします



お忘れではありませんか!?
23年度 あらぐさ後援会
会員更新・会費納入
まだまだ間に合います。

ご入金と行き
違いになりました場合はご
容赦ください。

あらぐさ後援会は、あらぐさ福祉会の理念「誰もが暮らしやすい街づくり」、を応援します。

みんなで力を合わせれば、大きな力となります。
あなたのご支援、お待ちしております。

1992年6月5日 第3種郵便物承認(毎月1回25日発行) 2012年2月14日発行 KTK増刊通巻第3767号 発行所 京都障害者団体定期刊行物協会 〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル中之町519 京都社会福祉会館4階 京都難病連内 発行人 高谷修 頒価50円(購読料は会費に含まれています)

KTK
あらぐさ通信